HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究各論　第二章　通巻第十五巻 : 生業活動の組織29
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1963-08-08
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77521
Type	manuscript
Note	国民社会の研究各論 第3章 : 国民文化の整序 『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I032_013742729.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

29

各論コノ(3)
K-3

(ス)

第二章

NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

生業活動の組織

(20)

国民社会の研究
各論

第二~~節~~章

通巻第十参卷

昭和二十年四月廿七日

29

社会分業

（一）生産の発展

（二）社会分業

国内貿易の輸送網

一農村について高品価化の進行とともに

たとえば行くのとまるを村の市町村

農村のインフレ化傾向

どの町にも村にも一般の生活必需

品が商品になってゆく

出産、結婚、病気、死亡などに必要な

用具、材料の商品化

花屋、仏具屋、材料の商品化

どこの村にも町にも

安宅した生産商品、生活資材の出来

税務署、公の収入の商品

全国生産人口数と就業人口数

失業統計

国民社会における生産活動の

秩序と統一

この問題をかつて社会学のフランス

における生産が社会的分業の

問題として理解したことがある。

最近における対外貿易の急速の

成長のため国内における滞貨生活の

封鎖的特殊性が著しく傷つけられ

国内には商品や生産活動の統一

的秩序は存しないかに見られる。

けれども対外的収支は直接国内生

産の秩序に影響を与えるなく

混乱

収入の階層は最高より最低
村落と都市の各々について生業
構造（家族別）結婚階層別一人当
収入　勤務別
（内閣統計局　統計
物価の
生業としての工業化法都市
商業　交通　人口　職人
交通　教育の文化

芝化法化文として利潤の直及に従事
しているものであって、それは日本の生業様
序の安定の緊要と解し得るものである。
この特質を操作するものは日本の
法都の一つである。ほとんど日本全の
のしの使命　経済法都の一種と考
えることが出来る。

主食の米さえ（麦）なかったけれど
は東南アジアの米作に依存している
ものもあり、海外輸入の大麦に
依存しているものもある。衣料は
印度の綿花や南洋の羊毛

2

は長い歴史を誇っていたが、化学センの発達によって今ではセンイにおいて
日本は日本国民をまかなって直ぼ余りがある。精密機械、化学製品
は世界の市場に押し寄せている。
世界最大のタンカーが一隻日産水上
と新聞は報じている。
日本の産業はすでに世界的である。
にも拘らず海外との収支は常
に黒字の年によって調節されている。
国民産業の自然の発展をその
まゝ即ち、世界的

その中の秩序とその安定に貢献し
ながら、海外との交流の拡充を
国民経済の発展のために役立ち
調節しているのが政府である。
貿易自由化はその政策の段階の一つ
であり、とくに世界の潮流と共に1934年には
貿易自由化が始まり、又それと共
に3億円の定額収支となった。輸入
品目は主として原料であり輸出品
目は殆ど製造品であり、日本はもう
立派な工業国になっている。
こんなに日本経済の最近の躍進は

苦しいものがあるのに、なぜかつ国民の
生活生活に統一と秩序があるとおい
なかの
国民の生活生活の秩序は乱しく
変化しつつあるようにたしかである。けど
とも思い、動揺がどんな盛んでも
それは今までの秩序の上に秩序の
中からうつって行くのに過ぎない。
農村の男子が都市の工場や公
共事業に賃銀労働者となって通
勤したり移住したりする。農村
を守るのは女子老人中年以上の

女はかえって、その代償として
機械が次々に使用されるにつ
り、婦人の余剰人口は、消費生活
の向上とともに、ますます
全く逆の傾向である。けれど
も男子および婦人同盟員は生産
運動の基本的要素であるのみならず
家族の基本的要素である。都市における人
同盟員も基本的にはやはり家族
ていないわけではない。の家族制度
く外に出る時間がなかった丈であり、都市
の職場では男はこの以よ
おからの封建的な

しんぞうが丈夫である。人の生き方の組織
かかわり、その為にその生き方も
変っていくから相異ないが、そんな
変化がおこるのはこんな活動
つづけて行った何十年かの後で
あろう。

人口移動の地域的階層的巨視的の大小と秩序

（一）人口移動の内容と組織

生産的協力と

地域的には北海道と鹿児島とは直接に生産的協力を行っているとは見られない。北海道は東京と鹿児島は大阪と大阪は東京と交流する。北海道と鹿児島は協力しているとおもうか必要。

又人口移動の最高所得階層の人と最低階層の人との間には切り離されるか、最高所得の中間的存在の幾つかの階層を通して両者は交流しているとおもへるのであろう

交流路線

かくの如き交流の結節の役を果している生業が集まっているところが都市である。その集まっている機能や量によって、大中小の都市とよばれている。都市は住民生活における交流の結点である。住民生活における大中小の都市の配置の網目の中に住民生活における生業の様態は完全に安定されていると見ればよい。

然ればかくの如き生業の様態の安定のためには住民生活における交

諸々有機体説の修正

流路系の安定した活動が必須である。動物の体に大動脈から毛細管までの全体によく行きわたっている脈管が必要である。かつて諸々有機体説が主張した同様の交流路網が必要である。

また同様の機能を同じようにする器官が諸々有機体説の追及を免れて諸々のものの細胞の分析に進んでいた。そして諸々有機体説が

予想していた攻撃は国民攻撃であって、そこで予想されていた組織や機能は主として国家とそれ集団の活動であるとそれを明らかにしてきた。政務が心臓であり、心臓を起点として体内にあまねく血管がゆきわたり、絶えまない血液流がゆきわたるように有機体は異なるが、その比喩はまことに巧妙適切である。

現代国家は国民だけでなく他にも同様の組織と法制度集団がある。

を学ぶ。口宗とかくの好き無関の
ことまるまるを明らかにしたるは有機体論
の特に方法の新しい発見であった。
けれどもこの考えが伝えられる程に
最初私は小太郎の様にすばらしい新
発論であるとは
現論ではなかった。
有機体論を共に口宗への関心を
たきすてた
共通なは口宗に対しては外に
見る事の過程の
は出なかった。
砂糖工は首都を共にして興味
さかれている口長沢の交流路線
の沿線を考える準備は何として

も有機体説の変態は直ちに思い出される者多い。

大中心の過程の伊岐系毎に都市形成の而在する。統治の過程に並行して他の様々の文化の発展も相ならんで存する。

何よりも重要なるは、今日昔も変化なき治の基礎や治都に整序を与えつゝあるは国家統治の治都であるとまようである。

北とは国家と国民生活との緊密

治都

すると私達の共元では国民元帥の中で
は国家の法制は絶対殺戮敵敵
さ示つると云ふ家を見逃していな
い。国家に対しても国民諸に対しても
正しい政治を欠くところに色々の誤
認の根拠がある。
国民は如何なる生業に従事するも
如何なる場所に生活するも自由
である。けれどもそれは国家経済上の
の事ない生業や場所があったとて、それ
れをせける様に、経済機関の人が
し拒否したとしたなら最初はどう

なるべきであろうか。多くの場合国民の
發達を妨げ経済生活の繁栄を要求する
所ではない。一部の場合は経済
生活は暴力によって当然の
繁栄を要求する事は強制すべきであろう。
使用人の解雇法は皇室と家族
の犯罪を通報義務から免れ
力は帝国主義的資本家にづらく思い
ましたとした場合は如何。
さんな場合は先元れはいくらでもある。
国民は経済生活を犠牲したりする為
に所論負けよりきまっているし勝って

大した利益にならないものであるから、口にせぬだけである。また多くの民は自由ということを統治者の定めている大きな枠内での自由であることを全く知らぬ。故に結果においては、いつの日か自分の定めた道の道を歩いていよう。

（一）生業文化の伝承

昔は父から子に生業の実際を共同で行われ、家族内で世代的に生業文化が伝承されて行ったが、今では職業的教師が学校で又職場で上役が伝承の役を演ずる。

生産における階層の序列は支配
の序列に平行し、搾取の序列は
同様である。

生業の異性と協力

生業の異性は他人である場合と他人の協力関係である場合とがある。生業の異性は夫婦の分別に強く協力しつつあるものである。生業によって夫婦の性質の異色度に強弱夫婦の別がある。主食生産の農業が最も協力度が弱く、商業、サービス業、給料生活者は協力度が高い。夫婦は協力であるとの認識の上に社会的分業や社会連帯の理解は可能である。貸借やお世話が協力であるとは言えない。搾取と強奪の

労働力でなく。人間関係は次の四種に分類される。

1 強奪
2 窃盗
3 詐取

一方的関係
非協力

4 交易
5 貸借
6 贈与

相互的関係
協力

右の関係における協力は4と5である。4は商業、5はサービス業、工業、情報伝達における協力である。

右の六種の人間関係において受授されるものは物か役務である。

(一) 生産圏の内部における協力と同様生産圏のテリトリーの整序

(一) 同業者の競争協力

20

において甲から乙に移動するもの
又は移転であり、外において移動するものは移送である。
生産者の活動範域は生産圏又は
サービス圏であるか、又は時
と場の目的合理性によって決定される
ものであるか、それとも生産者
自身と制限者の協力の作動と
選められるか、それとも共に同
業者のテリトリーの整序が
加わっている。
同業者の関係は甚だ微妙であって
より協力である場合と烈しい対立

又は競爭者である場合とがある。
同業者が相互においてくしくも上下の
関係にあるばあい協力者となることも
あるが、相互が同業者であるばあい対立
競爭の機會が多いであろう。又当
三人は多分に人間的同伴者的性格
のもので業者と業者の同伴かうのみで
は決定的弱い。

左の点は生産諸の諸結に同じにすべきもの

交易の組織

物と勤労の買、借、世貢の基礎形式

（而して市場経済）

その前過程に

強奪と詐取の形式がある。

故に基本形式は強奪と詐取、買、借、世貢の三種である

その中間に詐取、買、借の三形式がある。

（都市的 合理的 非合理的）

奪、詐、買、借、世貢

合法的関係

口民成立基礎 非合法となる

生活の上に認めなければならぬ社会的形式である。何人も之れを不公平し強奪する実行である。

なは我に於て独自組織しつゝあるもの中

独立資本主義の金口的活動組織、

支店、下請工場の金口的布石

口民の富は主として家族を單位として生活の世帯に蓄積して交流しているが人の能力や社会的位置によって富は偏在する事多く或る二つには高積を事とあるとこれは貧を生ずるとして富は偏在している。これは固定なものであるか私有財産制が相續する以上、又個人の能力や社会的地位に差等がある以上、永久に相續すれば富は前後の富を生ずる力をもっている以上富の偏在は止むことはない。

然し口民はあるかぎり

＊

組合、

文化の発展、代表的には直接に職場（学校、寺院、教会、新聞、テレビ、ラジオ、デパート等）の活動による

しのと思はれる。又家族内の世代的伝承。

物資の交流は商業工業の職場の活動によるもの

協力の各種

(1) 一、貨幣（交易）（円貨）の協力の変遷

(2) 一、代償

一、賃借、統治、支配、

統制、分業、位階、階級、地位、役割、都市、農村、家族、友人、仲間、

(3) 一、子供、老人、家族

一、事業、交友、

一、支配、統治（他力）、組合、賃借（自力）

＊

D、民族、国家における協力国体の各種

a、職場における協力

（生業における協力）

仕事、国体者、地域、国体（小集団）

（上級下級、支配関係）

b、世帯における協力

（生活における協力）

（地域、人、親人、隣人）

C、世帯から世帯へ

（職場の関係）

世帯から職場（又はサービス受給）

（職場への関係）

D、職場から世帯

（賃金、又はサービス供給）

（所得税や高利貸し等の利用者も含む）

E、職場から職場へ（交易的）

支配する者とされる者の間の協力

職場における内部の協力

＊

F、統治者と被統治者（下の協力）

＊

24

金事の機能

職事官制

一項 職員令

同事務局、陰務理合

生業（活動）と交易

自給自足生活は安定した。

通貨

物々交換での中間人の役割

交易用具の効能と過去

交易路線の固定的特徴

通信、運送、交通

生業の単位

生業の地方的特性

生業と所得、日給と月給

竹細工等御と藩制等御

生業協力体における支配と被

支配

搾取

第一次産業、第二次産業、第三次産業

一人又は家族生業

少数人生業協力体

百人生業協力体

千人生業協力体

万人生業協力体

南方協力組合

同業組合

同業組合

第一項 | 第五項 | 農業の高度

第六項